

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院心臓血管外科に、急性大動脈解離で通院歴のある患者さんへ

和歌山県立医科大学外科学第一講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われる方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

Stanford A型急性大動脈解離に対する両側腋窩動脈送血の有用性に関する後ろ向き観察研究

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学外科学第一講座 教授 西村好晴

3. 研究の目的

Stanford A型急性大動脈解離は重篤な疾患であり、緊急手術の対象となりますが、未だにその成績には改善の余地があります。手術の方法において各施設で様々な取り組みがなされており、一定した見解がありません。我々は両側腋窩動脈送血という術式を用いており、有用な方法と考えています。今回の研究でこの有用性を明らかにすることにより、Stanford A型急性大動脈解離の手術成績向上に寄与したいと思っております。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

Stanford A型急性大動脈解離の患者さんで、平成14年1月1日から令和3年12月31日までの期間中に、急性大動脈解離に対して人工血管置換術を受けた方

(2) 利用させて頂く情報

この研究で利用させて頂くデータは、年齢、性別、臓器灌流障害の有無、送血部位、手術時間、術後合併症、術前後の画像診断に関する情報です。

(3) 方法

両側腋窩動脈送血を行った患者さんとそれ以外の方法で行った患者さんとで術前術後の情報を比較します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させて頂きます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。また、患者さんが研究参加への判断が困難な場合、代諾者が研究協力を拒否する機会を保証いたします。

7. 資金源及び利益相反等について

資金源は講座研究費で、利益相反はありません。

8. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学外科学第一講座 担当医師 西村好晴

TEL : 073-441-0615 FAX : 073-446-4761

E-mail : surgery1@wakayama-med.ac.jp